

## 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

### 1. 研究課題名

肺炎球菌尿中抗原の適正利用についての研究

### 2. 研究の対象患者

2018年1月1日から2018年12月31日までに当院救急外来を受診した患者さんの中で、肺炎球菌尿中抗原検査を提出された患者さん

・ 選択基準

- 1) 肺炎球菌尿中抗原検査を提出された患者さん
- 2) 年齢不問
- 3) 性別不問

・ 除外基準

- 1) 後方視的研究のため特に定めませんが、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者さんは除外する。

### 3. 研究の対象期間

2018年1月1日～2018年12月31日

### 4. 研究の概要

高齢化が進む本邦での死亡原因として肺炎は以前より大きな割合を占める重要な疾患である。診断・治療開始の遅れが死亡率増加にも寄与するため、早期診断・早期治療が求められる。

細菌性肺炎の起炎菌として肺炎球菌は最も主要な起炎菌であり、本邦でも成人肺炎の約20%前後を占めている。その肺炎球菌への感染を診断するツールとして肺炎球菌尿中抗原検査があり、海外のガイドラインでは重症症例においての使用が推奨されているが、感度・特異度が比較的高く検査が簡便・迅速であることから本邦の臨床現場では感染症検査のルーチンとして頻用されているのが現状である。本邦における肺炎球菌性肺炎の99%以上はペニシリンG感受性であるが、尿中抗原陽性症例においてもセフトリアキソンなどの広域な抗菌薬の選択がなされていることが多く、検査陽性になった場合であっても結果解釈が不十分のまま漫然と検査が行われている可能性がある。

そこで本研究では、総合病院国保旭中央病院の救急外来で肺炎球菌尿中抗原検査を提出された患者さんに投与された抗菌薬の内容から検査が診療に影響を与えているかを後ろ向きに解析し、当検査の適正利用について検討する。

### 5. 研究実施予定期間

2019年11月20日～2021年3月31日

### 6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：年齢、性別、診断名、転帰、受診時バイタル(体温、血圧、心拍数、呼吸数、血中酸素飽和度、意識レベル)

〔検査〕：肺炎球菌尿中抗原、血液培養、喀痰培養、尿培養、胸水培養、グラム染色

〔検査〕：初回投与抗菌薬、処方薬

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも

患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院旭中央病院

・研究責任者：診療局 中村聡志

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)